

# 確かめよう。 もしもの時はどうするの？

いくつかありましたか？

前のページにある品々は、災害時における非常持ち出し品の一部です。地震や風水害などの災害が発生し、火災や建物崩壊が起こったときには、避難をしなければならず、必要な物を探して袋に詰めていく余裕はありません。普段から準備をしておき、持ち出しやすいところに用意しておく慌てなくて安心です。

前ページの品々は		
飲料水	非常持出袋 (リュックなど)	食料品
スプーン フォークなど	携帯ラジオ	軍手 肌着・下着
ばんそうこう ガーゼなど	懐中電灯	雨具 ティッシュ ウェットティッシュ

想像してみてください

電気・ガス・水道・電話・車など、普段は特に気にすることなくスイッチを入れたり使ったりしています。これらが突然使えなくなったら...

昨年九月に台風18号が上陸した際、南区のあるマンション



▲あなたなら、どうしますか？

ンでは、強風により送電停止となり、揚水用の電気ポンプが停止したため、停電と断水の状態になりました。

震度6強の地震が起こると、電気・ガスは自動的に供給が停止され、電話も一般電話は通信規制が掛かり、つながりにくくなります。

つまり、夜中に地震が起きると、突然真っ暗になり、いろんな物を探そうにも見えなくなり、非常持ち出し品である「食料や水、衣類や貴重品など」を用意することがとても困難になることは容易に想像できるでしょう。

こんな訓練もあります

災害に対する「防災訓練」というと、消火訓練や担架搬送などの訓練を思い浮かべる人も多いでしょう。

近年「DIG<sup>※</sup>（災害図上訓練）」という新しい訓練が各地で広がりを見せています。

真駒内地区では、二月二十六日(土)にこのDIGを実施しました。町内会をはじめ、中学校長や生徒、赤十字奉仕団や老人クラブも参加。防災関係は真駒内の陸上自衛隊や南警察署、南消防署など、ライフレイン関係は北海道電力や北海道ガス、NTTやDocomo<sup>※</sup>など百名余りが集まりました。

地震の想定は震度6強、いろんな場面で自分が何をするか考え、グループごとに発表。



▲みんなの意見を張り付けていきます

## ▼避難の際の安全なルートは...



家を出る時注意することなど、いろいろな意見を参考にしていました。

また、避難の際には、隣近所と助け合い、一人暮らしの高齢者などに声を掛けることが大切であり、「遠くの親類より近くの他人」向こう三軒両隣<sup>※</sup>という言葉の重要さを再認識していました。

参加者の一人は「ガスの元栓を閉めることは考えていましたが、電気のブレーカーを落とさないと通電火災を引き起こすことを知り、勉強になりました。今日は防災について考えるよい機会になりました」と話していました。

## 家庭と地域で

大規模な災害で、火災や建物崩壊、道路やライフラインが寸断されると、救援が来たり、電気やガス、水道などが復旧したりするまではおよそ三日かかると言われています。その間は、隣近所や地域の自主防災組織が中心となり、救助やけが人の手当て、避難誘導、二次災害の予防に努めることはとても大切なことです。

※DIG：Disaster Imagination Game

Disaster（災害）、Imagination（想像）、Game（ゲーム）の頭文字を取って名付けられた、誰でも参加できる防災訓練プログラムのこと。英語のdig（動詞）には「掘り起こす、探求する、理解する」という意味があり、「防災意識を掘り起こす」「地域を探求する」「災害を理解する」という意味も重ねて名付けられています。

※通電火災：落下の衝撃でスイッチが入ったり、あるいは破損された電気ストーブ・熱帯魚のヒーターなどが、電気の復旧に伴って通電することにより発生する火災。また、倒れた家具・電化製品などで電源コードが圧迫され、地震の揺れの衝撃でコードの内部が断線すると、通電された時にコードが発熱し、被膜が燃えて火災が発生します。